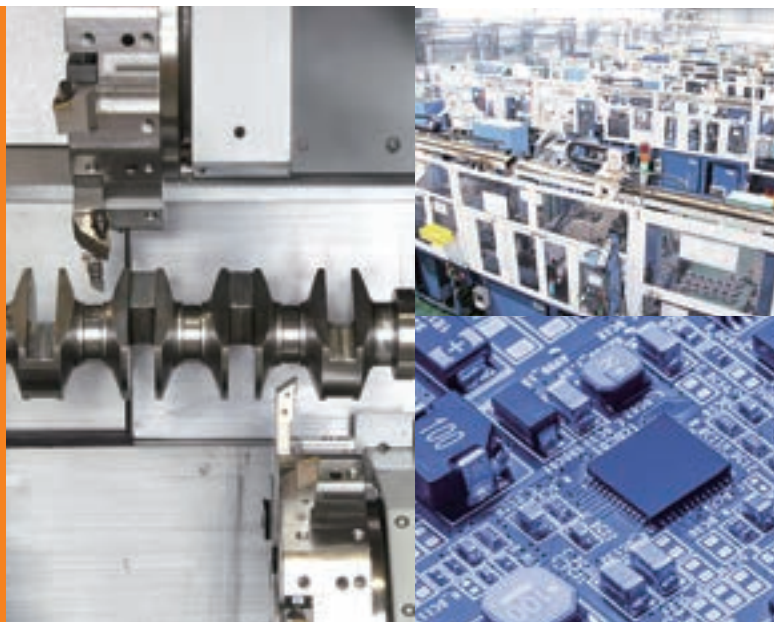


第 59 期

株主通信

2019年4月1日～2020年3月31日



CONTENTS

- P1 社長インタビュー
- P4 TOPICS
- P5 事業のご紹介
- P6 セグメント別概況
- P7 連結財務諸表
- P8 製品のご紹介
- P9 会社概要・株式情報



株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社は2020年3月31日をもちまして第59期連結会計年度（2019年4月1日から2020年3月31日）を終了いたしましたので、当連結会計年度の振り返りと今後の見通しについてご説明させていただきます。

ご高覧いただき、当社についてご理解をより一層深めていただければ幸いに存じます。

代表取締役社長 **高松宗一郎**

Q 第59期(2020年3月期)の振り返りを
お願いします。

A 第58期より減収ながらも、連結売上高が
2期連続で200億円を上回りました。

当社グループの第59期経営成績は、連結売上高219億47百万円(前年同期比3.1%減)、営業利益18億60百万円(同20.1%減)、経常利益20億53百万円(同17.8%減)、親会社株主に帰属する当期純利益14億15百万円(同17.2%減)でした。連結売上高は過去最高を記録した第58期を下回ったものの、2期連続で200億円を超えることができました。

この主な要因は、工作機械事業において、第58期末に抱えていた180億円を超える非常に高水準の受注残高に対応し、生産性向上をはかりつつフル生産を続けてきたことにあります。また、IT関連製造装置事業においては、リピート案件に対する適切な生産と新規案件の開拓に努め、自動車部品加工事業において

は、効率的な生産を実施してきました。

利益面では、原価低減や業務効率化の活動が成果を上げているものの、売上高の減少および固定費の増加が影響しました。

第59期連結売上高が好成績を収めた一方で、中国経済の減速や米中貿易摩擦の影響による先行き不透明感が設備投資の抑制につながり、受注高は低迷しました。当社グループでは、自動化技術を付加した最適なソリューション提案を行うことで受注確保をはかるとともに、主力取引先である自動車産業以外の市場開拓に向けた活動に注力してきましたが、受注高は60億92百万円(同67.1%減)にとどまりました。

また、第59期末に新型コロナウイルス感染症が拡大してきたことも設備投資抑制に拍車をかけました。足元の景気や先行きの見通しが急激に悪化するなど、当社グループを取り巻く外部環境が大きく変化しました。

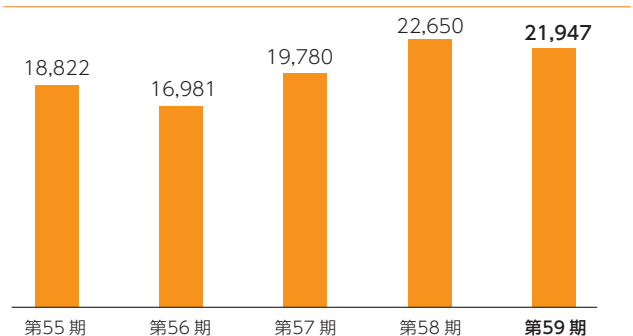
Q 中期計画2021の進捗について教えてください。

A 更なる企業基盤の強化を目指し、中長期の成長に向けた戦略を推進してきました。

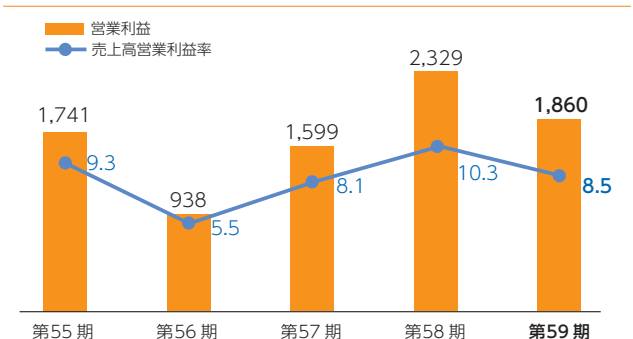
当社グループが推進している中期計画2021の基本方針は「挑戦し、成長し続ける企業となるべく、3ヵ年で更なる企業基盤の強化を目指す」です。初年度である第59期では、全社戦略の一つである「生産能力の増強」として、新工場の建設を決定しました。中長期的視野で当社グループが成長していくために必要な投資であります。

また、事業別戦略である「国内新市場の開拓」として、新たな需要が見込まれるEV向けの設備投資案件の獲得をはかるなど、基本方針の実現に向けて策定した各戦略の展開に努めてきました。

売上高 (単位: 百万円)



営業利益・売上高営業利益率 (単位: 百万円, %)



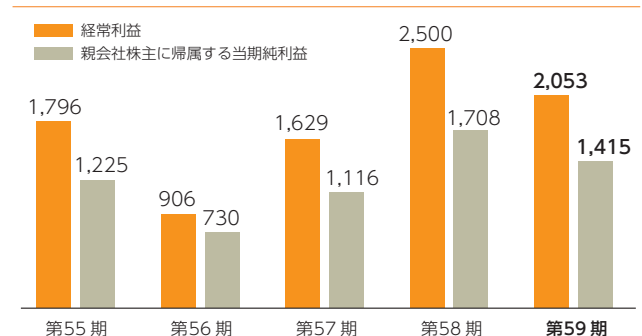
Q 第60期(2021年3月期)の見通しはいかがですか。

A 新型コロナウイルスの影響によって先行き不透明な環境が続くと見込まれます。

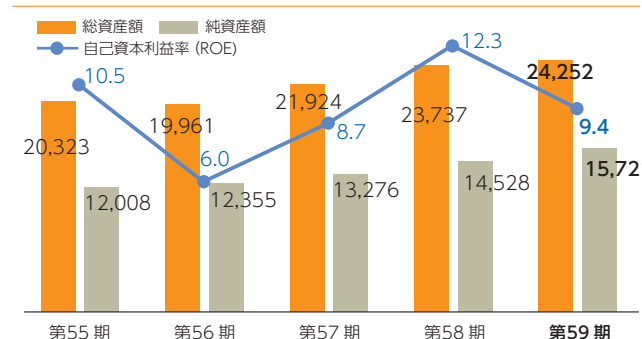
世界経済・日本経済の先行きについては、新型コロナウイルス感染症の状況およびその影響に左右されます。経済活動の抑制や停滞、感染拡大第二波の懸念など、更なる下振れリスクを包括していることで、これまで以上に不透明な状況が続くと想定されます。

当社グループの主力分野である工作機械業界においてもその影響を大きく受けています。景気先行きの不透明感から、内需・外需ともに設備投資の先送り傾向が強まっており、需要が当面低調に推移する可能性が高いと見込まれます。

経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益 (単位: 百万円)



総資産額・純資産額・自己資本利益率(ROE) (単位: 百万円, %)



Q 業績予想と取り組みを教えてください。

A 厳しい状況が予測されますが、潜在需要の確保に努めていきます。

第60期の連結業績予想は、期中において新型コロナウイルス感染症の影響が収束し、経済活動が回復に向かうと仮定した上で、売上高178億75百万円、営業利益7億60百万円、経常利益8億82百万円、親会社株主に帰属する当期純利益6億55百万円を見込んでいます。

経済環境の先行きは厳しいと予測されますが、工作機械ユーザには、省人化のための自動化・効率化ニーズや老朽化更新等の潜在需要があります。当社グループではこれら潜在需要を取り込むべく、ICTの活用等、新型コロナウイルス影響下に対応した営業活動を推進し、お客様とのコミュニケーションをはかります。また、国内外拠点間の連携強化をはかるとともに、新型コロナウイルス収束後も見据えるなど、市場環境に即した販売戦略を推進していきます。

IT関連製造装置事業、自動車部品加工事業では、既存取引からの需要確保に努めるとともに新規取引の獲得もはかるなど、売上高拡大のための施策に取り組んでいきます。

2021年3月期連結業績予想

売上高	17,875百万円 (前年同期比 18.6%減)
営業利益	760百万円 (前年同期比 59.1%減)
経常利益	882百万円 (前年同期比 57.0%減)
親会社株主に帰属する 当期純利益	655百万円 (前年同期比 53.7%減)

このように受注・売上の確保に努めるとともに、業務効率化の取り組みを更に促進していくことで、収益力の強化もはかっています。

また当社グループを取り巻く外部環境を鑑み、2021年4月に操業開始を予定していた新工場は、2022年4月操業開始予定に変更しました。1年延期となりますが、新工場稼働に伴う生産性向上や業務効率化の取り組みを更に推進した上で、需要回復局面に新工場が寄与できるよう備えます。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

近年、当社グループは拡大する工作機械需要を取り込み、成長を遂げてきました。今後の更なる成長を志向し、新工場建設という大きな設備投資も行いますが、第59期の配当は前期より3円増配した年間25円(中間10円、期末15円)を配当させていただきました。

一方で第60期に目を向けますと、世界的大流行となった新型コロナウイルスの影響は甚大であり、売上・利益ともに前期を大きく下回る見通しです。また、経済活動の回復を見込んでいますが、状況は日々刻々と変化し、予断を許しません。このような状況を鑑み、第60期の配当は年間20円(中間7円、期末13円)の予定とさせていただきます。

新型コロナウイルスの発生は足元の経済環境を急激に変化させ、今後も非常に厳しい状況が見込まれますが、当社グループでは計画達成および更なる成長に向けて、今なすべきことに全社一丸となって取り組んでまいりますので、今後とも変わらぬご支援とご指導を心よりお願い申し上げます。

最近の受賞

★精密工学会高城賞

産学官共同研究である「パイプフレーム構造CNC旋盤」の開発に関する論文が2019年度精密工学会高城賞を受賞しました。

この賞は、精密工学分野で独創性に優れ、工業的価値が高いと認められる論文に贈られる賞です。

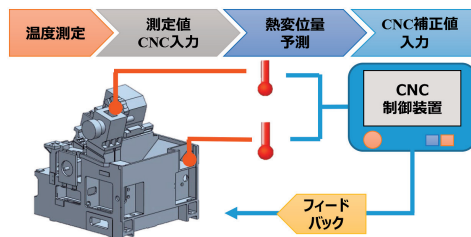
パイプフレーム構造CNC旋盤は、生産効率を低下させずに省エネルギー化が可能となる点から、環境問題に配慮した製品開発につながることが期待されています。



★日本機械学会奨励賞(技術)

当社社員が、熱変形補正システムの開発により2019年度日本機械学会奨励賞(技術)を受賞しました。この賞は、優れた成果をあげた、機械学会所属の若手企業研究者・技術者に贈られるものです。

熱変形補正システムは、熱による機械の変形を予測し、高い加工寸法精度を維持できるため、熱による加工寸法値の変化という課題を解決できます。当社機種に搭載可能であり、今後ますますの活用が見込まれます。

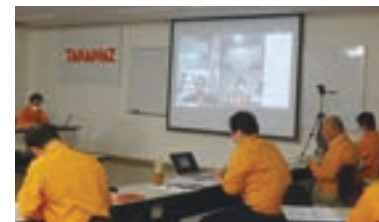


業務効率化への取り組み

当社では、生産性向上のため、業務効率化に関する様々な取り組みを行っていますが、その一つにWeb会議の推進があります。

これまでの営業会議は全国各地の営業拠点から社員が本社に集まり開催していましたが、この会議において、現地にも参加可能な「Web会議」を活用しました。これにより、移動にかかる時間・コストの削減を実現しながらも、対面と変わらないスムーズなコミュニケーションがとれた効率の良い会議を実現できます。

このほかにも多くの取り組みを実施・検討していますので、今後更なる効率化を進めていきます。



展示会情報

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、当社が出展を予定していた展示会等において日程の延期や中止が決定されました。

新機種をはじめとした製品群や技術力をお客様に直接披露する機会が減ることは残念ではありますが、当社からの情報発信等、今できることに取り組み、需要確保に努めています。また、展示会再開の折には、改めて積極的にアピールしていきます。

株主の皆様にはご心配をおかけしますが、ご理解をいただきますようお願いいたします。

F Aシステム部移転

これまで別拠点にて活動を行っていたFAシステム部の3事業(ロボット・エンジニアリング事業、改造事業、食品加工機械事業)を、第4工場に集約しました。これにより、部内のコミュニケーションが強化され、より密に情報共有をはかれるようになりました。

また、第4工場は本社から徒歩3分と非常に近いことで、FAシステム部各事業が本社工作機械事業と連携を取りやすくなっています。

この度の集約によるメリットを生かし、FAシステム部の更なる事業拡大に向けて邁進していきます。



工作機械 事業



工作機械事業は、工作機械の本体および周辺装置を設計、製造しており、それらの販売やサービス・メンテナンスも行っています。

工作機械とは、金属を所定の形や大きさに加工し、様々な製品の部品を作る機械です。自動車など、身近にある金属製品の生産には、工作機械が欠かせません。

当社の工作機械事業における強みは、これまで培ってきた自動化技術に裏打ちされた「カスタマイズ力」にあります。当社では手作業工程を自動化させるため、工作機械に自社開発の周辺装置を取り付けたものや、数台を連結したお客様仕様の生産ラインを提供しています。より細かいニーズに対応できる当社の生産ラインは、お客様から高い評価を得ています。



当社工作機械 + 自社開発の周辺装置 = お客様仕様の生産ライン

IT関連製造 装置事業



IT関連製造装置事業では、環境条件や空気清浄度を徹底管理するクリーンルームを設け、液晶や半導体の製造に関係する製品を製造しています。当社オリジナル製品ではなく、他社ブランド製品を製造するOEM生産です。また、近年はライフサイエンス分野にも参入し、事業の拡大に努めています。



自動車部品 加工事業



自動車部品加工事業では、すべての生産設備を自社製品で構築し、自動化させた加工ラインを24時間稼働させて、自動車部品を製造しています。主に製造を行っているのは、エンジンの部品である「スタータハウジング」や「エンドフレーム」等です。受注から出荷まで一貫した生産体制と、徹底した品質・納期管理により、お客様のご要望に沿った製品の提供に努めています。

セグメント別概況

第59期 売上高構成比



工作機械事業

売上高 **19,358**百万円
(前年同期比 5.8%減)

営業利益 **1,645**百万円
(前年同期比 26.6%減)



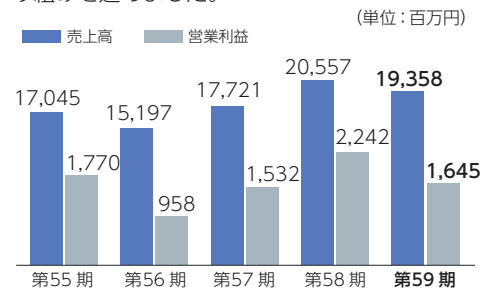
営業面では、国内外の展示会に出展した他、海外の連結子会社においてプライベートショーや現地ディーラ会議を開催し、受注確保をはかってきました。

地域別の売上高は、北米向けが好調に推移した一方で、国内向けやアジア向けに減少が見られた結果、内需が122億16百万円(前年同期比11.1%減)、外需が71億41百万円(同4.8%増)、外需比率が36.9%(前年同期は33.2%)となりました。

製品面では、1台に3台分の加工装置を搭載し、生産性アップにつながる「XV-3」、優れた操作システムを搭載し高い生産性を実現させる「XT-8」

の2機種を新たに発表しました。

生産面では、生産管理業務の効率化や組立員のスキルアップ強化など、生産性向上に寄与する取り組みを進めました。



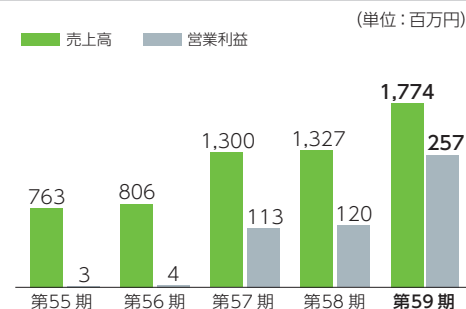
IT関連製造装置事業

売上高 **1,774**百万円
(前年同期比 33.6%増)

営業利益 **257**百万円
(前年同期比 113.3%増)

半導体関連やその他の製造請負案件でリピート需要が安定的に継続したとともに、新規案件も業績に貢献しました。また、製造原価低減活動に努めてきたことも営業利益の大幅な改善につながりました。

この結果、売上高・営業利益ともに3年連続で過去最高を更新しました。



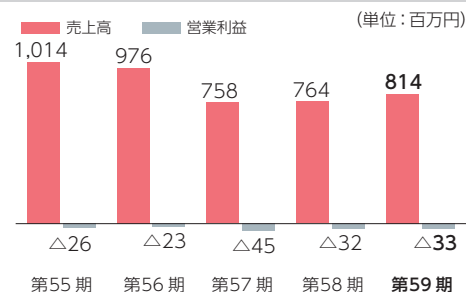
自動車部品加工事業

売上高 **814**百万円
(前年同期比 6.5%増)

営業利益 **△33**百万円
(前年同期は△32百万円)

当社単体の売上高は、既存取引先における生産計画の下振れが影響したものの、総じて堅調に推移しました。

連結利益においては、タイの連結子会社にて事業拡大のための先行投資を行った影響により、営業損失の計上となりました。



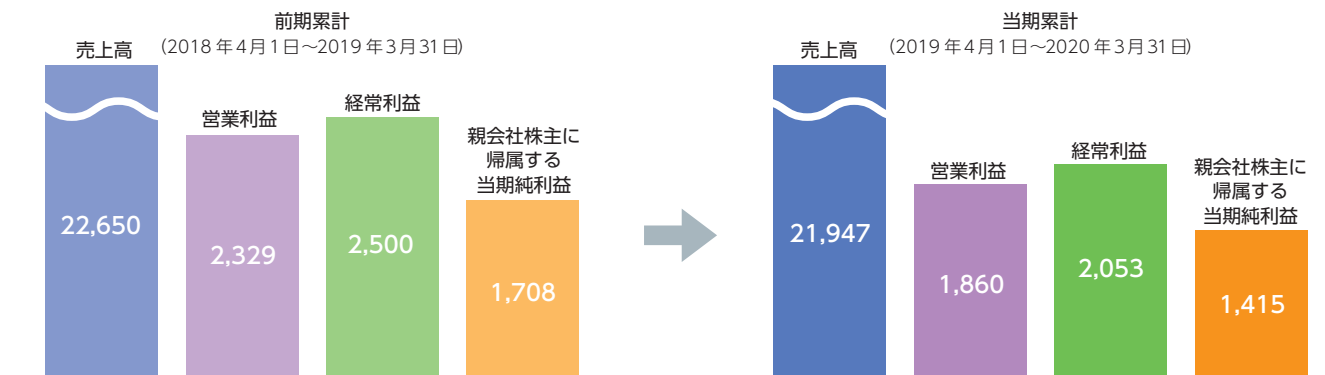
連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)



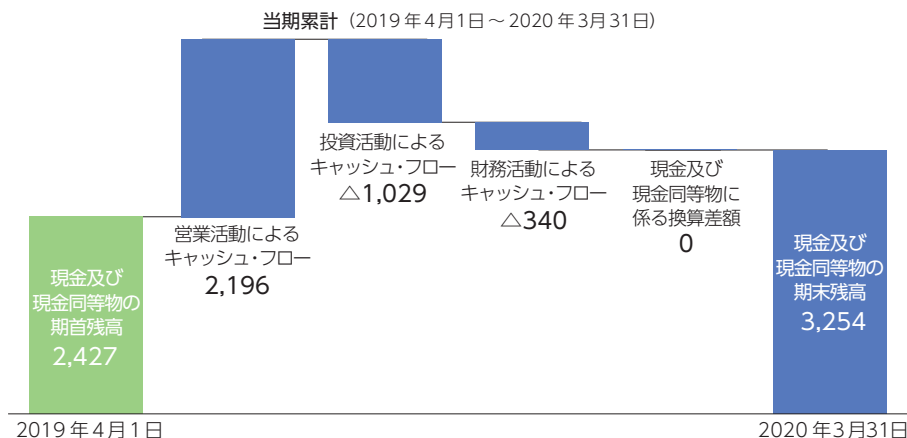
連結損益計算書の概要

(単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)



▶▶▶ 財務情報のご案内 ◀◀◀

詳細な財務情報は、当社IRサイトよりご覧いただけます。

IR・投資家向け情報

Click!

<https://www.takamaz.co.jp/ir/>

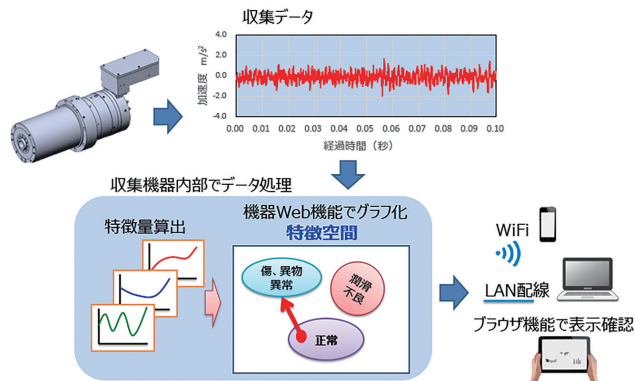
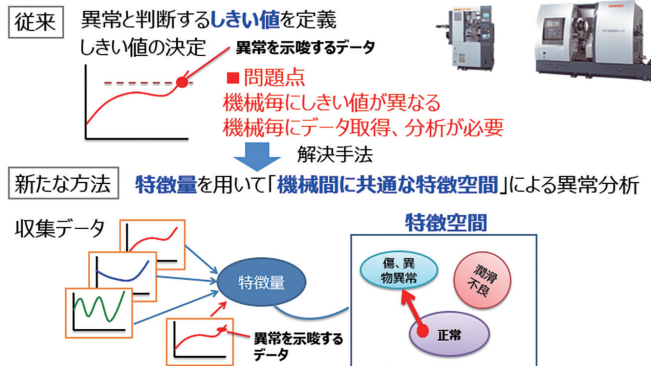
主軸状態監視システム スピモニー

当社はお客様の生産サポートを目的とした「T-サポートシステム」をオプションにて提供しています。今回、その中の一つである「主軸状態監視システム スピモニー」をご紹介します。

近年、機械の異常をあらかじめ検知する「予知保全」が、機械停止時間の短縮につながり生産性を維持するとして、注目されています。

そこで開発したのが、工作機械の主軸に対して予知保全を実現するシステム「主軸状態監視システム スピモニー」です。

異常を予測する一つの方法として、「しきい値」と呼ばれる境目の値を基準として、異常を検知する方法があります。しかし、この方法では、機械の仕様、サイズの違いによって「しきい値」が異なるため、機械ごとにデータの取得、分析を行うことが必要でした。



そこで新たに開発した「主軸状態監視システム スピモニー」は、どの機械にも共通する「特徴空間」を用いることで、機械の仕様、サイズに関わらず主軸の状態を監視し異常検知が可能です。

また、主軸の状態をタブレットやPCにて一目で確認できる仕組みとなっており、それまでの主軸状態の経過についても把握ができます。

この「特徴空間」を用いた状態監視という新たな方法により、「主軸状態監視システム スピモニー」は、お客様の生産性向上に寄与します。

表紙機種のご紹介

XT-8

表紙掲載の新製品「XT-8」は人気製品「XL-150」の後継機です。従来機から進化した操作性と切削能力により、お客様の生産性アップに貢献します。



ポイント①

TAKAMAZオペレーティングシステムを採用。直感的な操作が可能なタッチパネル等を搭載しました。



ポイント②

中低速回転数の加工において強力な切削能力を発揮するオプション仕様を追加しました。

会社概要

商号	高松機械工業株式会社
英文商号	TAKAMATSU MACHINERY CO., LTD.
設立	1961年7月
資本金	18億3,539万円
本社	石川県白山市旭丘1丁目8番地
従業員数	555名

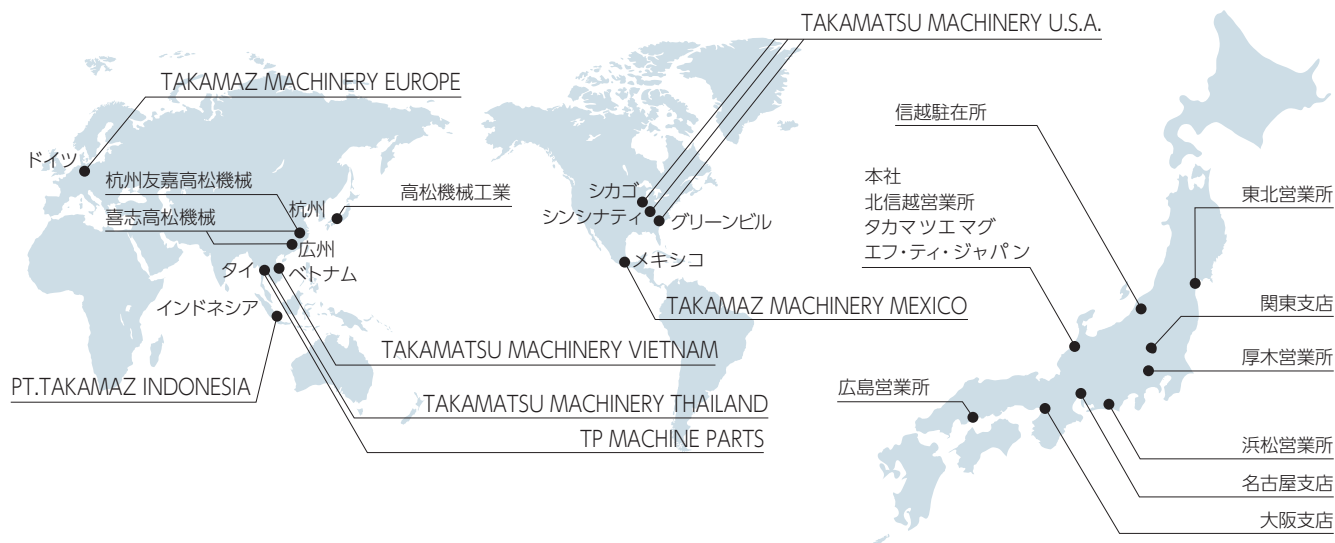
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ CNC旋盤等の製造、販売およびサービス・メンテナンス ・ 部品、コレットチャック等の製造、販売 ・ IT関連製造装置の製造 ・ 自動車部品の加工
------	---

ホームページアドレス <https://www.takamaz.co.jp>

役員 (2020年6月23日現在)

代表取締役会長	高松 喜与志
代表取締役社長	高松 宗一郎
常務取締役	徳野 穰
常務取締役	磯部 稔
常務取締役	四十万 尚
取締役	溝口 清
取締役	村田 俊哉
取締役(社外)	中西 祐一
取締役(社外)	石原 多賀子
取締役(社外)	池元 ことみ
常勤監査役	成田 秀信
監査役(社外)	杖村 修司
監査役(社外)	高井 和男

ネットワークとサービス体制



株式の状況

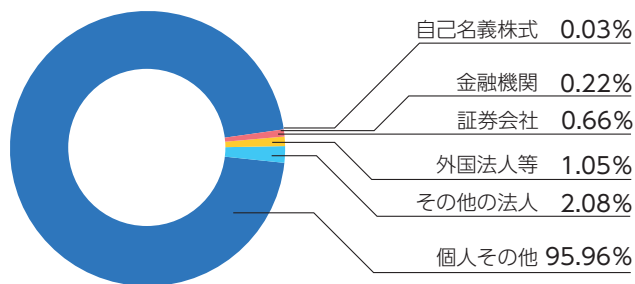
発行可能株式総数	30,000,000 株
発行済株式総数	11,020,000 株
1単元の株式数	100 株
株主数	3,612 名

大株主

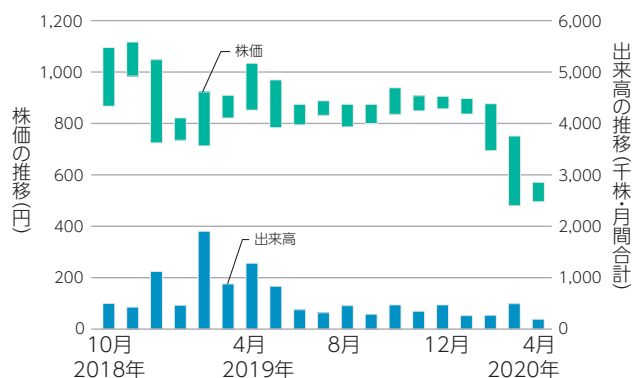
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
高松機械工業取引先持株会	913	8.38
株式会社タカマツ	810	7.43
北国総合リース株式会社	433	3.97
株式会社北国銀行	408	3.74
日本生命保険相互会社	384	3.52
明治安田生命保険相互会社	360	3.30
株式会社朝日電機製作所	355	3.26
高松明毅	330	3.03
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND	317	2.91
高松機械工業社員持株会	307	2.82

(注) 持株比率は自己株式(114,745株)を控除して計算しております。

所有者別株主数比率



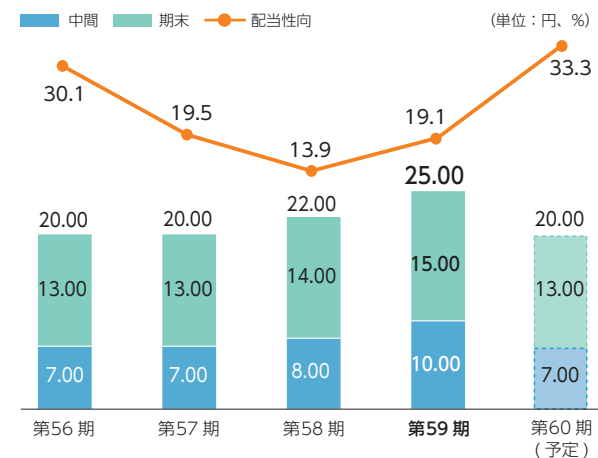
株価・出来高の推移



配当方針

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つと位置付け、安定的な配当水準を維持していく方針です。また、将来の利益の成長および企業価値の向上に資する事業投資に充当するため、必要な内部留保を行っていきます。当社の剰余金の配当は、中間配当および期末配当の年2回を基本的な方針としています。

1株当たり配当額



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月中

株主確定基準日
(1) 定時株主総会 3月31日
(2) 期末配当金 3月31日
(3) 中間配当金 9月30日
(4) その他必要ある時 あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人事務
取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎0120-782-031
(インターネット
ホームページURL) <https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

公告の方法 当社ホームページに掲載
<https://www.takamaz.co.jp>

上場証券取引所 東京証券取引所市場第二部

管理本部 企画経理部
お問い合わせ先 TEL 076-274-1410(直通)
FAX 076-274-1418

【株主に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会については、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

TAKAMAZ
高松機械工業株式会社

ホームページのご案内

ホームページでは、様々な企業情報や展示会・イベント情報、IR情報をお届けしています。どうぞお気軽にアクセス、ご利用ください!

当社ウェブサイト「トップページ」

<https://www.takamaz.co.jp>



アンケートご協力をお願い (単元株主の皆様へ)

当社は、株主の皆様のお声を頂戴するため、アンケートを実施しています。同封したハガキに質問へのご回答をご記入の上、切手を貼らずにそのままご投函ください。皆様からの貴重なご意見をお待ちしております。お手数をおかけしますが、ご協力いただきますようお願い申し上げます。



マークシート方式になりました。当てはまる番号を鉛筆で塗りつぶし、ご回答ください。

ハガキによるご回答

同封のハガキのアンケート回答欄にご記入の上、ご返送ください。

____ 締め切り _____

2020年9月30日(水) 当日消印有効



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。